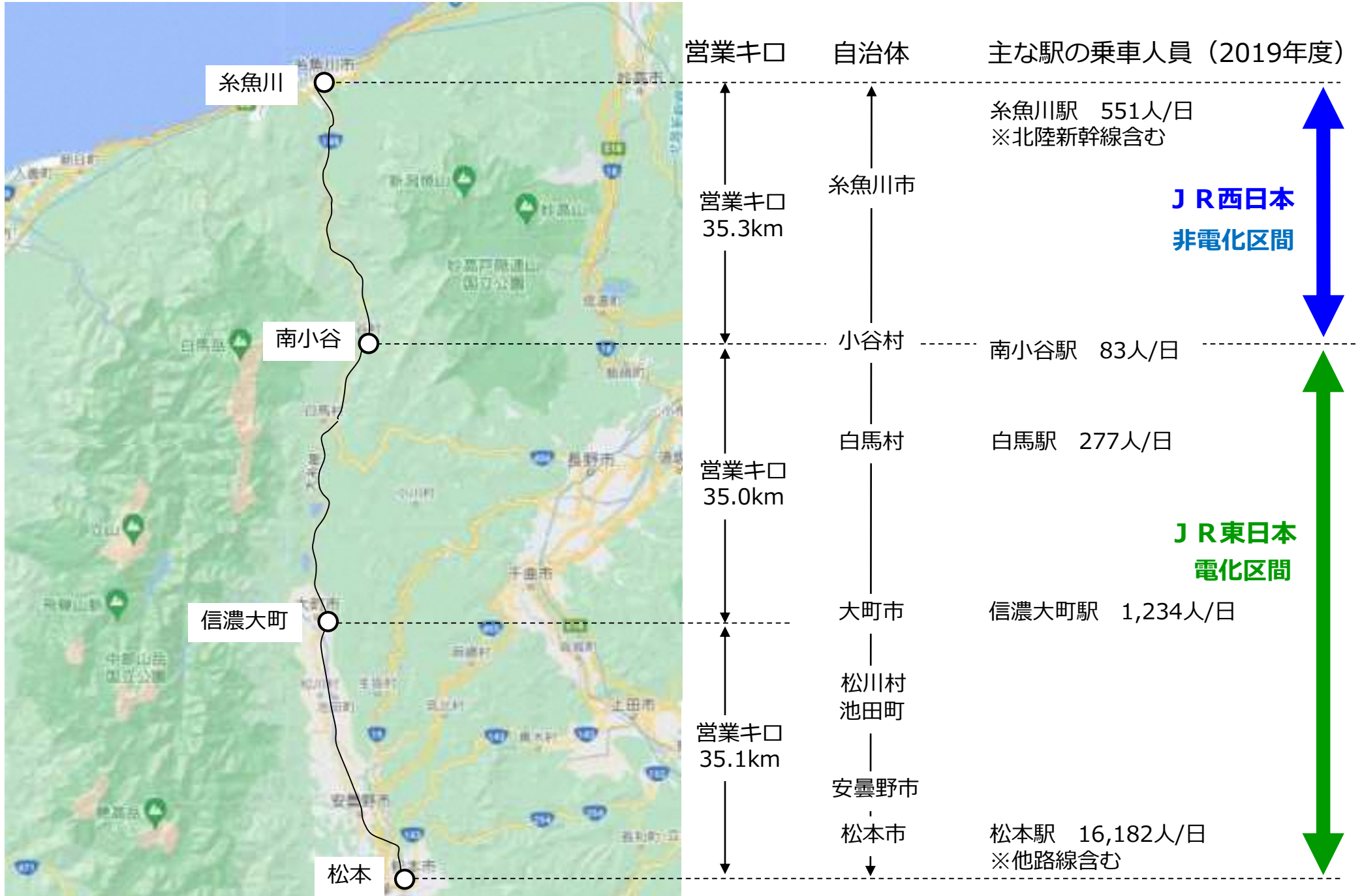


# 第1回 振興部会 資料

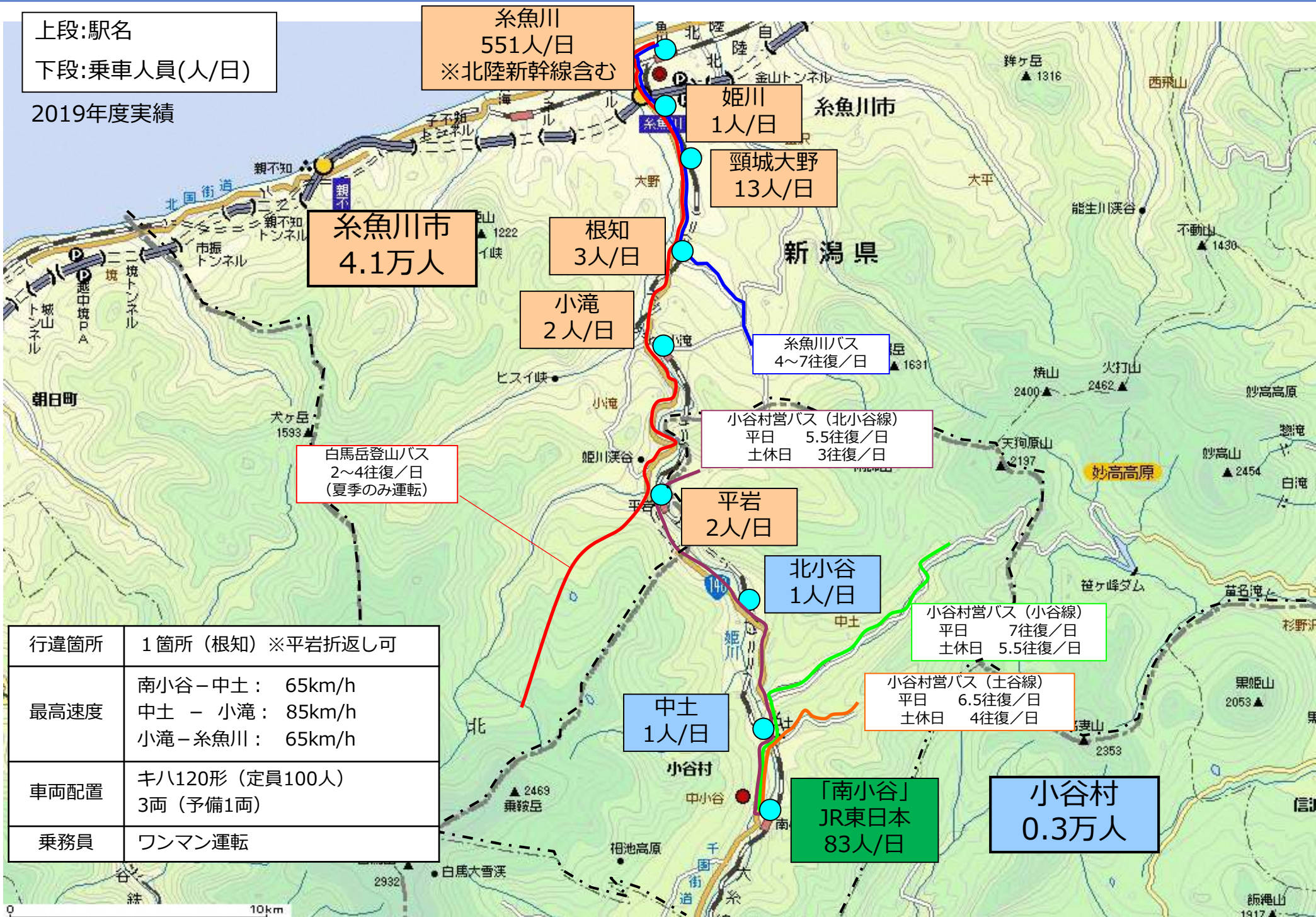
～大糸線沿線の活性化および持続可能な路線としての方策検討～

- 大糸線の現状について（ご利用状況など）
- 活性化の取組みについて
- ご利用者・沿線住民の移動ニーズについて



# 大糸線【南小谷～糸魚川】の概況

上段:駅名  
下段:乗車人員(人/日)  
2019年度実績



糸魚川  
551人/日  
※北陸新幹線含む

姫川  
1人/日

頸城大野  
13人/日

糸魚川市  
4.1万人

根知  
3人/日

小滝  
2人/日

糸魚川バス  
4～7往復/日

小谷村営バス(北小谷線)  
平日 5.5往復/日  
土休日 3往復/日

白馬岳登山バス  
2～4往復/日  
(夏季のみ運転)

平岩  
2人/日

北小谷  
1人/日

小谷村営バス(小谷線)  
平日 7往復/日  
土休日 5.5往復/日

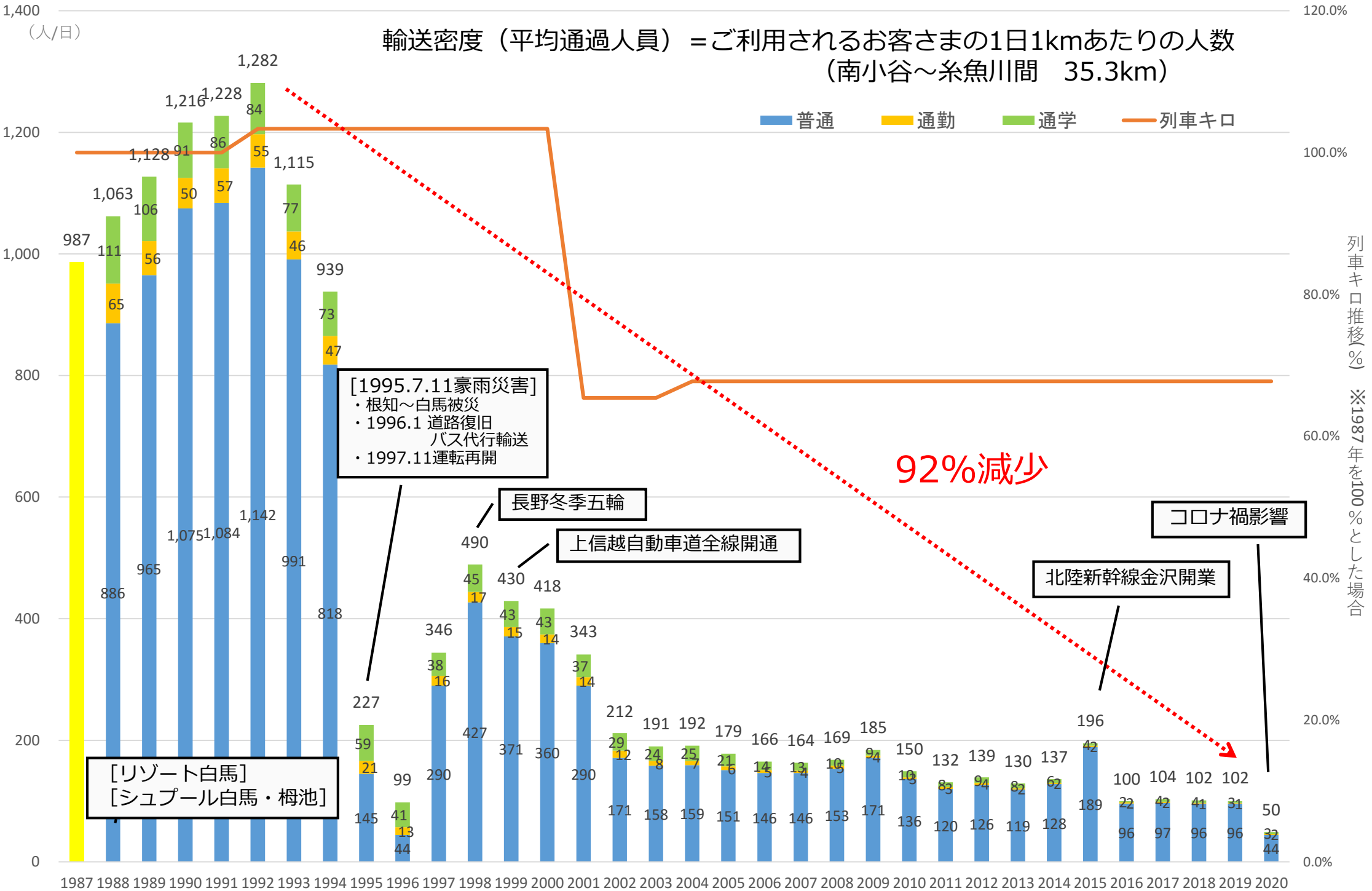
小谷村営バス(土谷線)  
平日 6.5往復/日  
土休日 4往復/日

中土  
1人/日

「南小谷」  
JR東日本  
83人/日

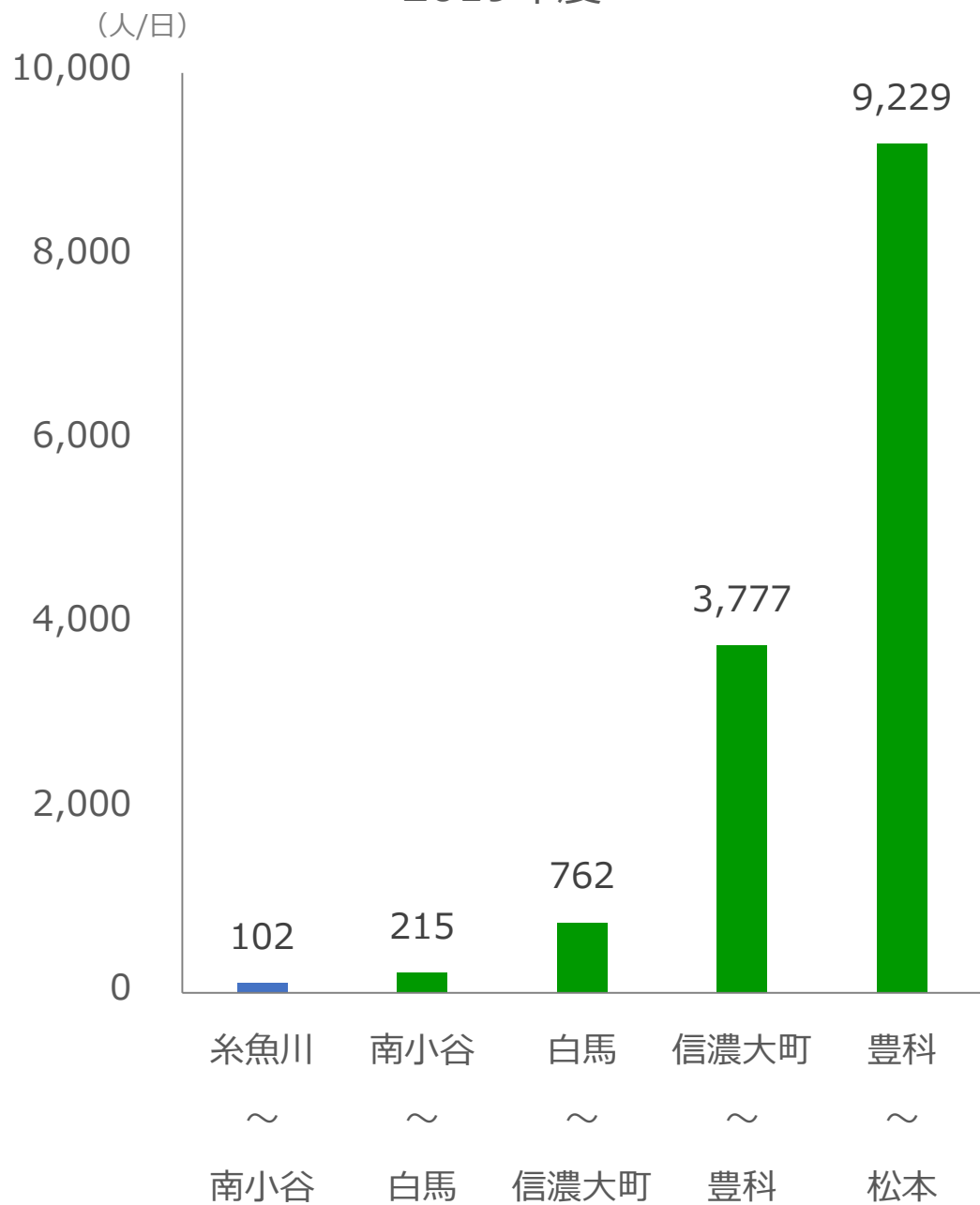
小谷村  
0.3万人

行違箇所	1箇所(根知) ※平岩折返し可
最高速度	南小谷-中土: 65km/h 中土-小滝: 85km/h 小滝-糸魚川: 65km/h
車両配置	キハ120形(定員100人) 3両(予備1両)
乗務員	ワンマン運転

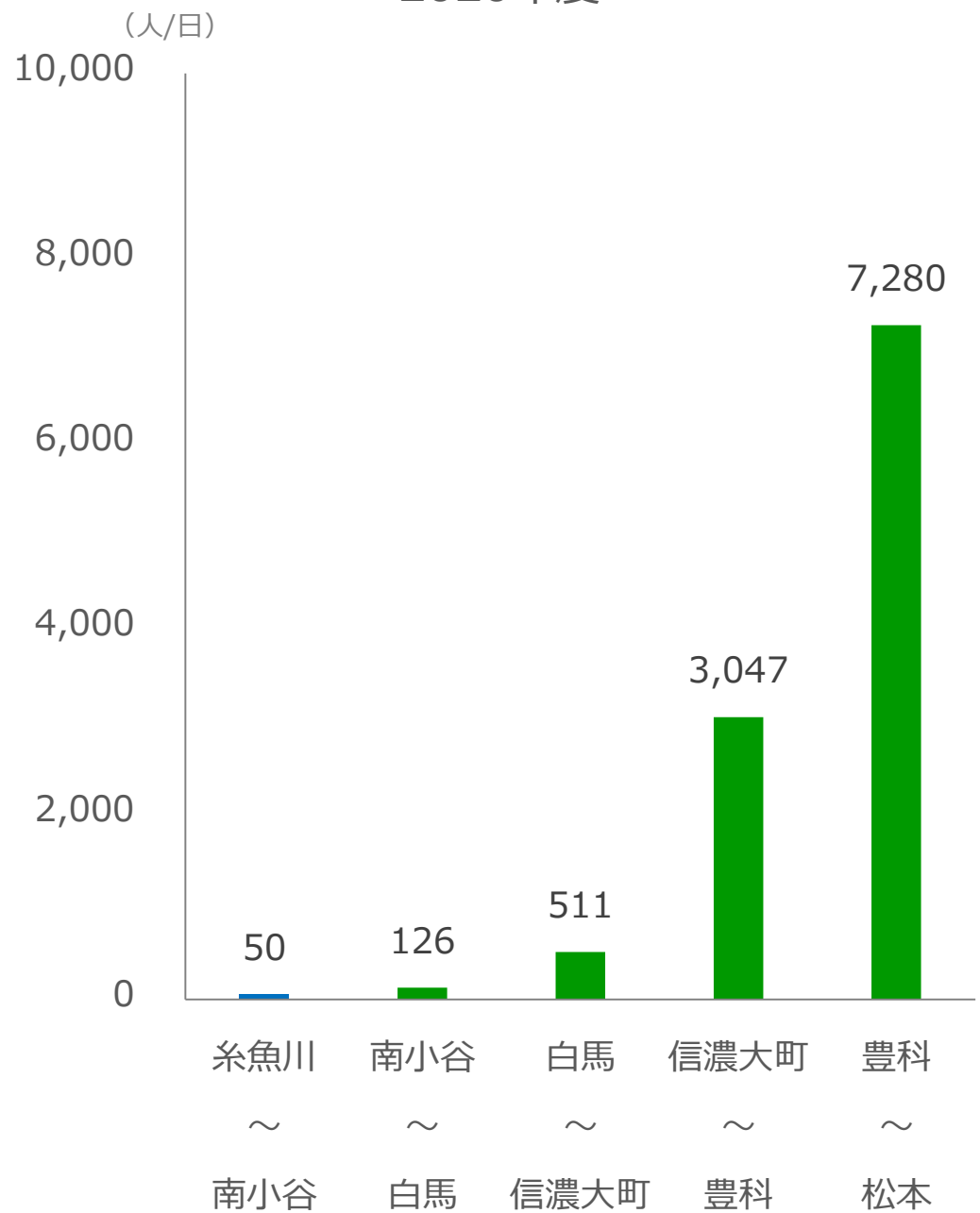


# 区間別の輸送密度（平均通過人員）

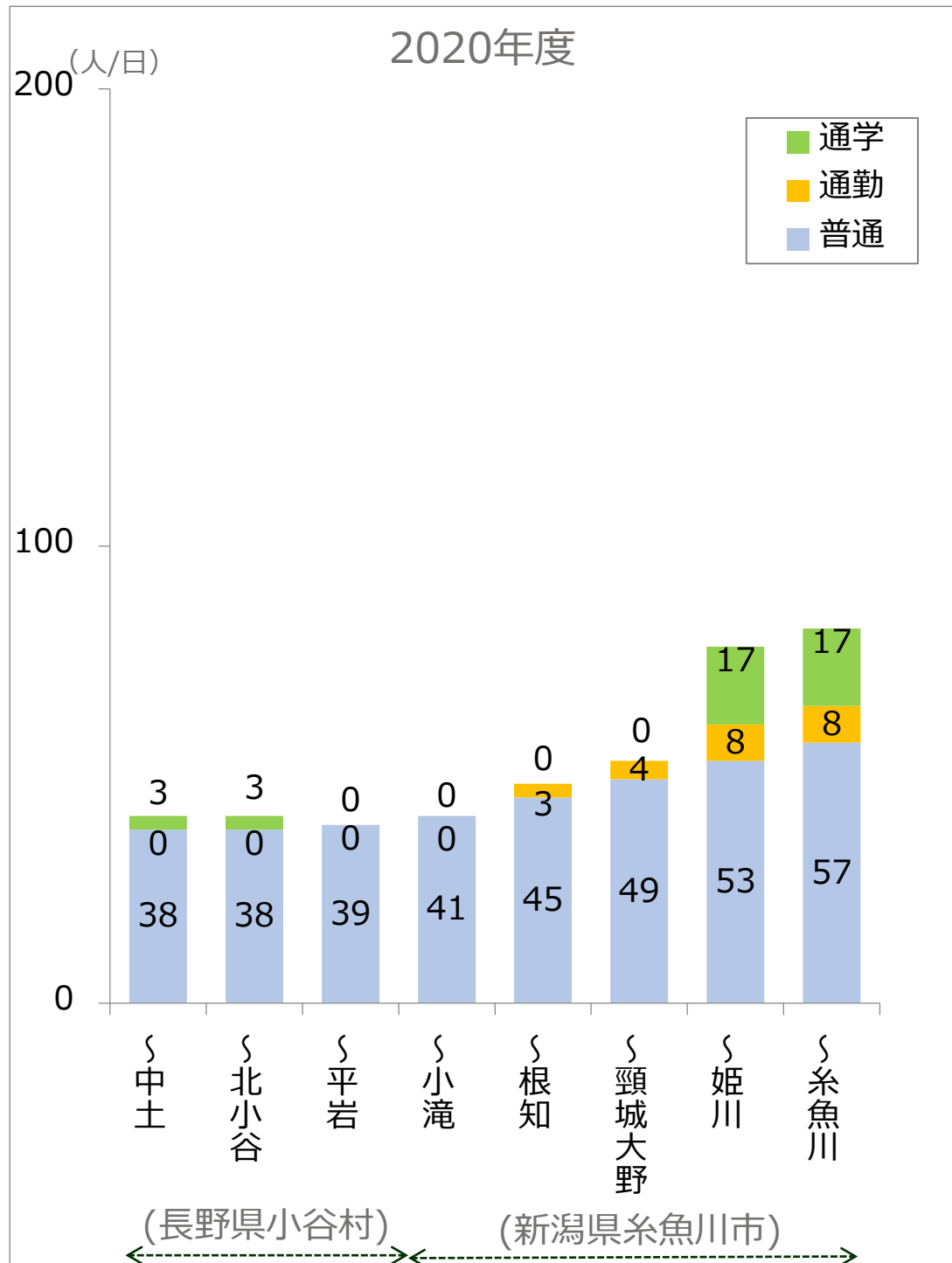
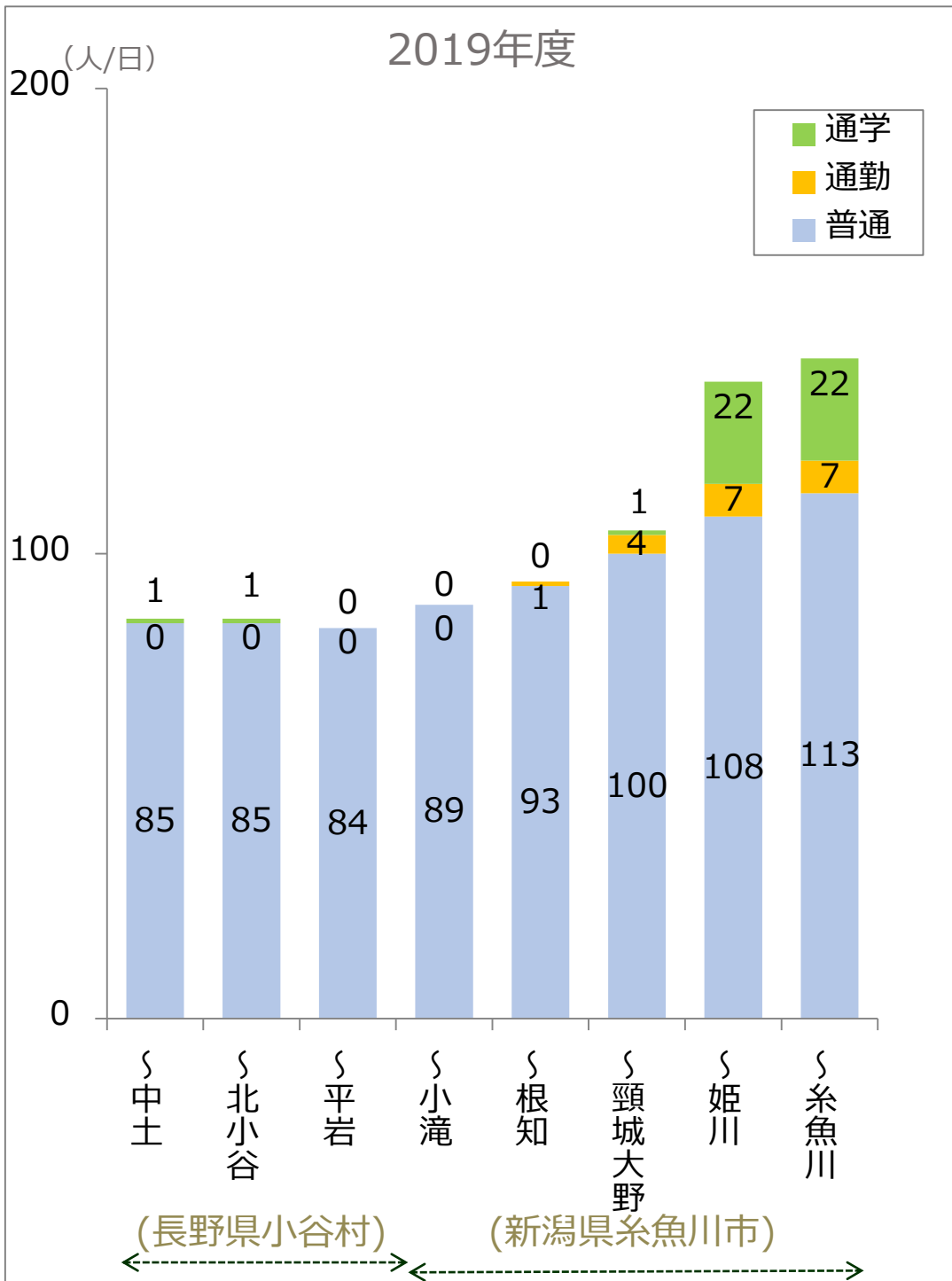
## 2019年度



## 2020年度



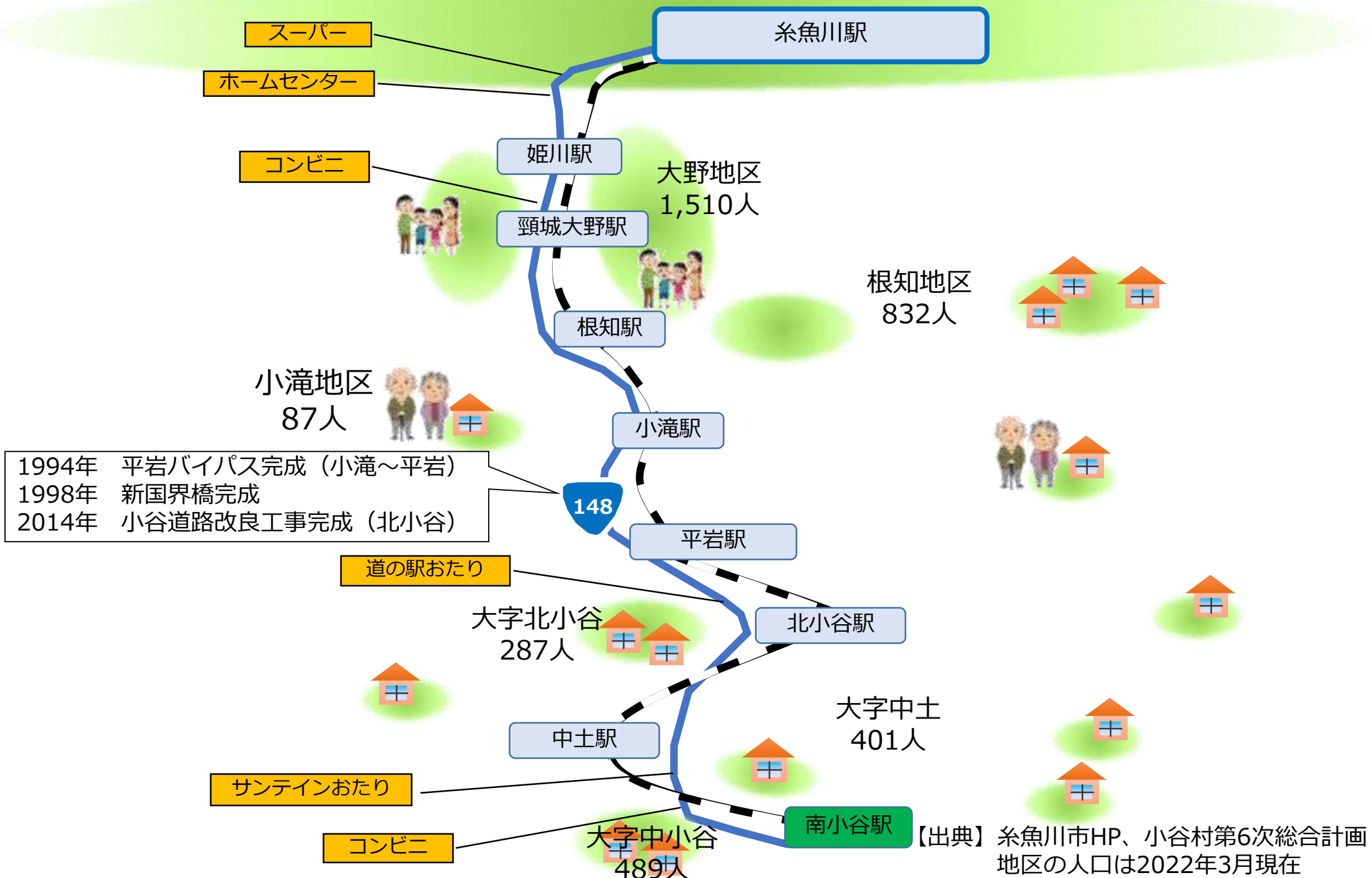
# ご利用状況（駅間輸送断面）





# 沿線の状況

所要時間(糸魚川～南小谷)： 国道148号 約45分 (36.5km)  
大糸線 約60分 (35.3km)



【出典】 糸魚川市HP、小谷村第6次総合計画  
地区の人口は2022年3月現在



# 大糸線活性化の主な取組み

北陸新幹線金沢開業効果の最大化に向け活性化の取組みを重ねてきた  
2019年2月の活性化協議会設立以降、更なる取組を加速

## 大糸線活性化協議会の取組み

～2017年度	2018年度	2019年度							2020年度						
15 ・3 北陸新幹線金沢開業	18 ・11 沿線観光MAP制作	19 ・5 「糸魚川塩の道起点祭」 お出迎えなど連携	19 ・8 地域との意見交換会	19 ・10 車掌体験列車 沿線観光MAP制作	19 ・10 新潟DC 増便バス運行 沿線観光MAP制作	19 ・11 糸魚川バル街トレイン運行 サイクルトレイン運行	19 ・11 大糸線フォトコンテスト	19 ・11 大糸線無料券配布（宿泊）	19 ・11 イベント利用助成	20 ・2 大阪駅での大糸線沿線観光PR②	20 ・8 再現車両公開③ 乗車スタンプラリー	20 ・8 トワイライトエクスプレス ハロウィン列車運行④	20 ・11 湯めぐり手形・MAP作成	20 ・11 雪月花乗り入れ運行⑤	20 ・12 大糸線応援隊設立
15 ・4 「駅プラン白馬山麓」販売開始 大糸線に手を振ろう運動① 花いっぱい運動	17 ・11 全線開業60周年記念式典 雪月花乗り入れ	19 ・2 大糸線活性化協議会設立													
①	②	③						④				⑤			
															

通年の取組み  
情報発信の取組み  
旅行商品造成

定期券補助、広報・HPなどで利用促進の情報発信、旅行商品造成支援（関西～白馬など）  
「西navi」への情報掲載（毎月）、沿線パンフレット作成  
グリーンリゾートキャンペーン、スノーリゾートキャンペーン（新潟県・長野県連携）など

## ○大糸線活性化の取組み



雪月花乗り入れ運行



湯めぐりスタンプラリー



サイクルトレイン



大糸線応援隊

## ○関西圏～上越・信州の交流人口増に向けた取組み



西Navi（西日本エリアで毎月36万部発行）を中心に、上越・信州を通年でPR

# 大糸線増便バスについて

## 1. 経緯

新潟県・庄内エリアステイネーションキャンペーン（以下、新潟DC）に併せて2019年5月31日、大糸線活性化協議会総会において令和元年度事業として正式決定。

鉄道で増便する場合、行違い設備等の整備が必要となり高いハードルがあったため、現行の鉄道ダイヤに加えて、バスによる増便を行うことで利便性を高め、大糸線の利用促進および沿線地域の活性化に繋がる取り組みとして実施した。

## 2. 目的

新潟DCを契機とした交流人口の拡大および生活・観光利用の促進と大糸線沿線地域の活性化

## 3. 期間

2019年10月1日（火）～12月31日（火）

## 4. 実施主体

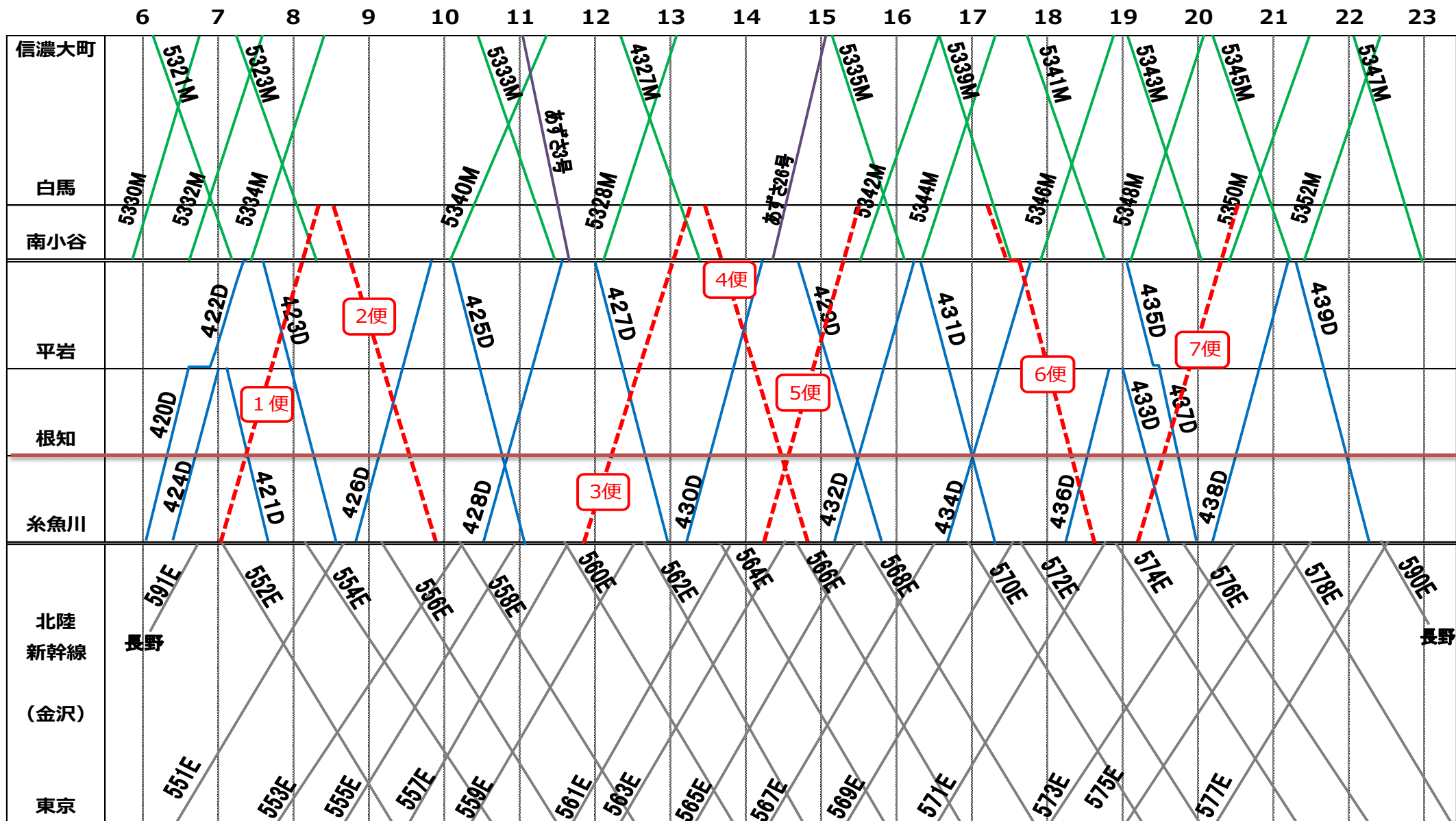
大糸線活性化協議会（会長：糸魚川市長、副会長：小谷村長、委員：白馬村、大町市、新潟県、長野県、JR西日本、オガザバー：JR東日本）

## 5. バス事業者

糸魚川バス(株)



- ・区間 大糸線（糸魚川～白馬）45.7km
- ・ダイヤ 鉄道ダイヤ7往復（+2往復：平岩折返し）にバス3.5往復を追加、朝夕や接続時間が長い時間帯など、お客様のご意見を踏まえ設定 ※下表参照
- ・停車場 糸魚川～南小谷までの各駅と白馬八方バスターミナル、白馬駅
- ・運賃 鉄道と同様



## 1. 運行ダイヤ

運行開始当初は上下ともに3～5分程度の遅延が発生したものの、日々遅延は改善し、1カ月後にはほぼ定時で運行

## 2. 運行状況・運休

期間中は無事故完遂

運休2本

(10月13日1便・2便 台風19号の影響で国道148号通行止め)

### 〔参考〕鉄道の運休

運休56本

終日運休：10月12日、13日〔台風19号〕

一部運休：10月3日〔強風：7本〕 12月6日〔除雪：9本〕 12月12日〔強風：4本〕

## 3. ご利用実績

乗車人員総数 2,936人〔平均 32人/日 4.6人/便〕

日中の列車運行に間合いがある時間帯で、白馬方面との接続を補完する2,4,5便の利用が比較的多かった

期間中は無事故完遂（鉄道が運休時も増便バスは運行）

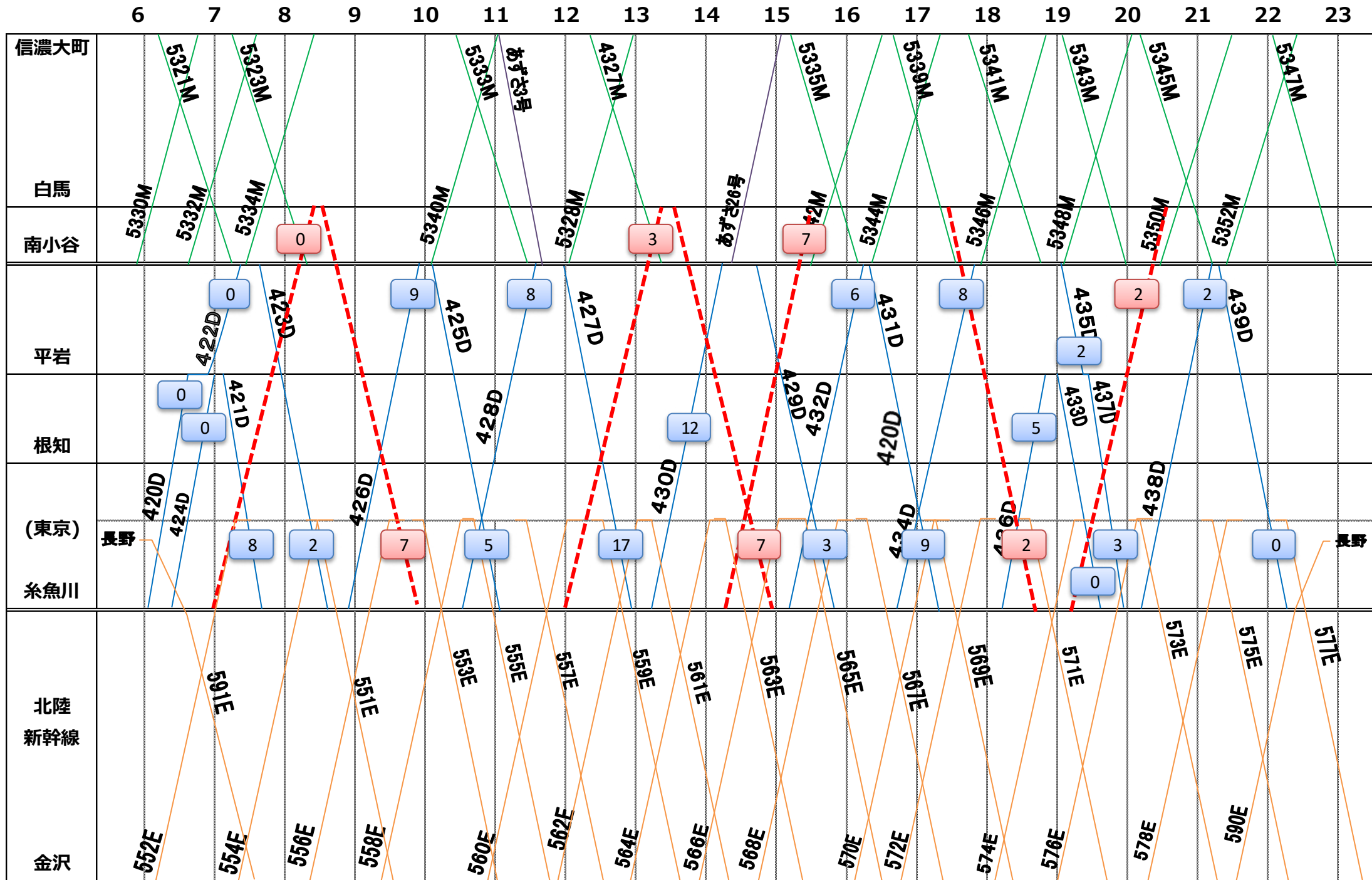
## 1. 調査概要

利用者の動向や増便バスの感想等の意見を集める目的で、乗込みアンケート調査を9月～12月の月毎に4日間実施

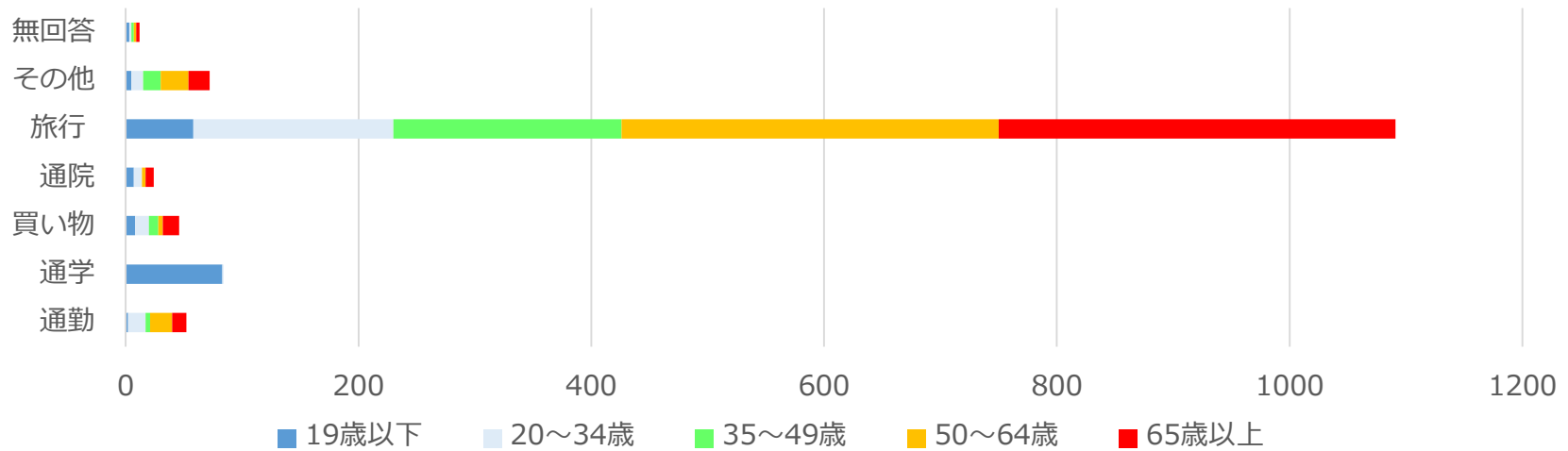
## 2. 実施内容

- ①調査日 2019年 9月26日（木）～ 9月29日（日） ※列車のみ実施  
10月17日（木）～ 10月20日（日）  
11月14日（木）～ 11月17日（日）  
12月 5日（木）～ 12月 8日（日）
- ②対象列車 調査日の全列車と全バス
- ③対象者 対象列車に乗車している方全員
- ④実施方法 アンケートにより記入方式（聞き取りも実施）
- ⑤調査員 JR西日本、糸魚川市、JR西日本コミュニケーションズ

# 列車・バスごとの平均乗車人数 (調査日の平均値・小数点以下切り捨て)

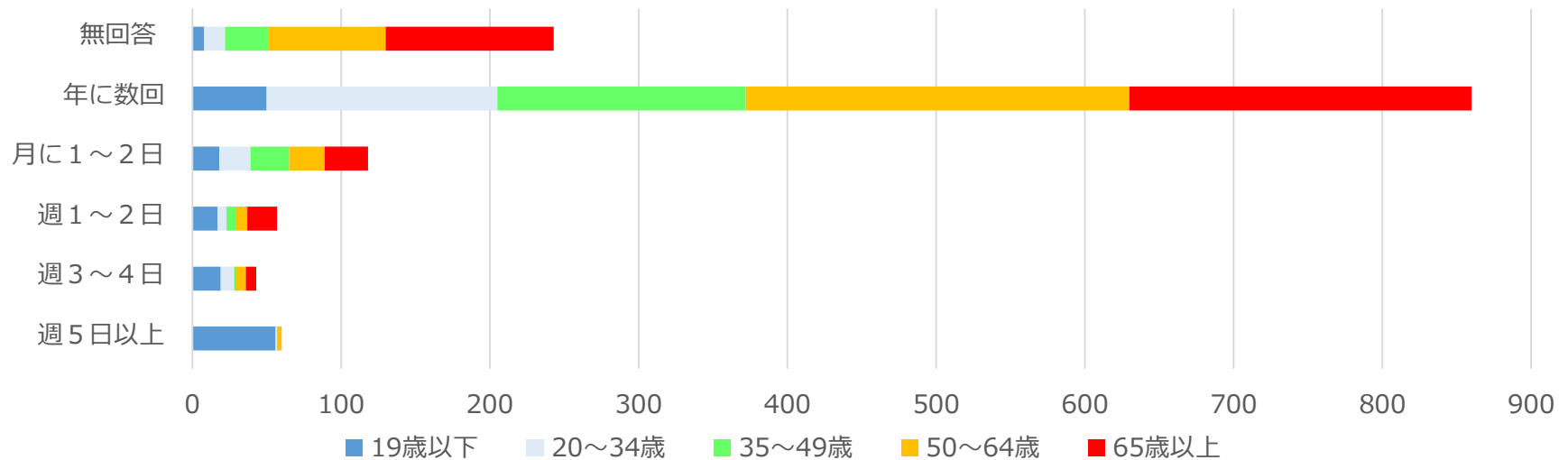


## 利用目的



通勤・通学や通院といった生活利用者は極小であり、平日・土休日を含めて8割が旅行目的。またシニア世代の利用が目立った。

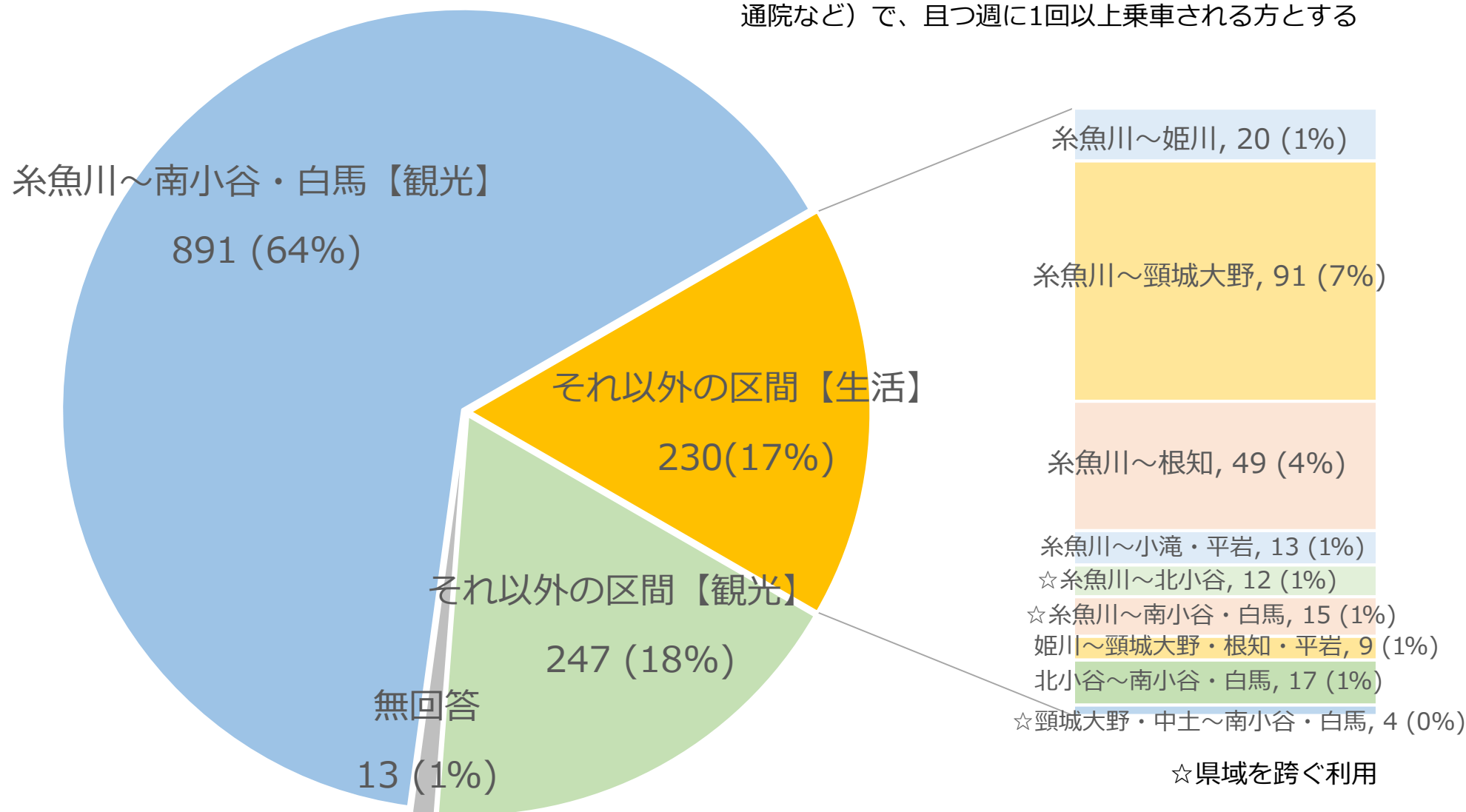
## 利用頻度



無回答を除くと、定期的なご利用者は約1割程度で一時的な利用が9割近くまで上った。



※生活利用者とは日常に利用される目的（通勤・通学・買い物・通院など）で、且つ週に1回以上乗車される方とする



観光利用が8割を占め、大半が糸魚川から南小谷・白馬といった拠点間移動であった。  
生活利用については県域を跨ぐようなご利用は殆ど見られなかった。

## 1. 経緯

2019年度に実施した増便バス施策や乗込調査の結果、大糸線のご利用者の8割が観光の一時的な利用であり、生活利用は2割ほどであった。

## 2. 目的

大糸線活性化協議会の取組みとして沿線住民のニーズや移動性を確認することで、更なる生活利用者の潜在需要の掘り起こしや、市村が運営するバスやデマンドタクシーなどを含めた公共交通全体の課題解決に繋げたい。

## 3. 調査会社

(株) J R 西日本コミュニケーションズ

## 4. 調査時期

配布：2020年10月初旬      回収期限：2020年10月31日

## 5. 調査手法

### (1) 対象

糸魚川市、小谷村在住の大糸線沿線の住民

### (2) 規模

3,000世帯（糸魚川市1,900、小谷村1,100）      回収1,310（回収率44%）

### (3) 配布

郵送または広報配布時に世帯宛てに調査票配布、郵送により回収

## 沿線住民の移動ニーズ（最も頻繁に出かける場所）

2020.10調査

(n=1,232)

		居住地の最寄り駅 回答数（うち大糸線）	着地（目的地）				
			糸魚川市内	小谷村内	白馬村内	大町市内	その他
発地 (居住地)	糸魚川市内発	糸魚川 3 2 1 (4)	85.4%	0.6%	1.2%	0.6%	12.1%
		姫川・頸城大野 2 9 4 (2 6)	93.9%	0.7%	0.7%	0.7%	4.1%
		根知 2 0 6 (9)	94.2%	0.5%	1.0%	0.5%	3.9%
		小滝・平岩 2 5 (5)	88.0%	4.0%	0.0%	4.0%	4.0%
	小谷村発	北小谷 6 1 (8)	39.3%	34.4%	19.7%	4.9%	1.6%
		中土 1 4 7 (1 0)	4.1%	19.7%	61.2%	10.2%	4.8%
南小谷 1 7 8 (7)		2.2%	14.6%	72.5%	9.0%	1.7%	

糸魚川市の住民は市内移動がほとんどで、  
小谷村の住民は白馬村への移動が多く、北小谷が分水嶺となっている。